



石ノ森章太郎「マンガ日本の歴史53 日中戦争・太平洋戦争」（©石森プロ／中公文庫、今後、新装版が刊行予定）から。日中戦争から、太平洋戦争の敗戦までを描いている

モンゴルと共同 遺構調査

ノモンハン事件に関する遺構調査が、日本とモンゴル共同で、2009年から行われている。中心となっているのは、アジア一帯で日本軍の軍事施設を調査する民間団体・虎頭要塞日本側研究センター（岡山市）だ。史料調査に加え、軍事考古学的手法による遺構調査によって、ノモンハン事件の全容解明が進められようとしている。

調査では、人工衛星やドローンを使って事件現場を撮影。その画

像を解析した上で実際の遺構を計測し、残されていた遺物を鑑定していく。その結果、土や草に覆い隠された中から、転轍などを探し当てた。15年には、ソ連軍の軍用鉄道の遺構も確認した。日本軍が空襲したソ連軍のタムスク基地に通じる鉄道だった。

同センターではこれまで5回の現地調査を実施。岡崎久弥代表は「公開された史料を参考にしながらも、抜け落ちている部分を現地



現在のノモンハン。右奥に見えるのは、ハルハ河（虎頭要塞日本側研究センター提供）

調査から解き明かしていくたい。文献と現場の情報が合致することで、点が線になり面となり、事件の全体像が見えてくるのでは」と話している。

ノモンハン事件

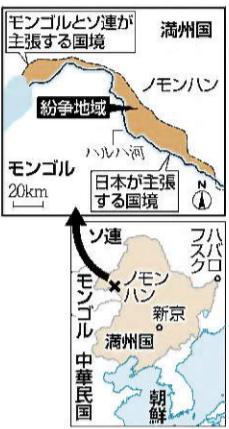
従來說

1939年、満州（現中国東北部）に駐留していた日本の関東軍は参謀本部の不拡大方針に反し、満蒙国境を越えて戦線を拡大していった。しかし、ソ連軍の機械化軍団の反撃を受け、一方的な大敗を喫した。

最新説

ソ連崩壊後の資料公開によって、ソ連側の死傷者数が日本側を上回っていたことが明らかになり、日本側の一方的敗北とも言えなくなった。単なる国境紛争ではなく、欧州の情勢などが事件に影響を及ぼした。

ソ連側、日本上回る犠牲



事件は39年5月、ハルハ
事件は、ソ連軍の戦車の大
圧倒的な火力を前に、炎災
攻撃を受け、日本軍は壊滅
的打撃を受ける。公刊戦史
『戦史叢書』などによれば、
日本側の死傷者数は1万8
000人以上となった。



日本側に多くの死傷者を出す
激戦となつたノモンハン事件

アツ・ブ・デー・ト

日本史

ノモンハン事件とは、1939年5~9月、満州とモンゴルの国境線を巡り、日本軍とソ連軍が繰り広げた近代戦のことだ。日本側はハルハ河を国境線と認識していたのに對し、ソ連側はハルハ河の東方約13キロを国境線と考えていた。

もともと小競り合いが絶えなかつたこの地域で、両軍合わせて10万人以上が戦う「戦争」となった理由としては、事件直前に関東軍によって策定された「満ソ国境紛争処理要綱」が挙げられる。要綱は、国境の明確でない地域では、防衛司令官が自主的に国境線を設定し、紛争が起きた場合は必ず勝を期すなどとした強硬な内容だった。

事件は39年5月、ハルハ河を越えてきたモンゴルの軍兵たちと、満州國軍の国境警備部隊が衝突したこと始まる。満州西部の防衛を担当する第23師団は、要綱に基づいて部隊を出動させたが、モンゴルの後ろ盾に始まり、ソ連軍も応戦し、本格的な戦闘に発展した。

不拡大を求める参謀本部の意向に反し、関東軍はソ連の基地であるタムスクを越境爆撃。7月には、大規模な作戦を展開した。しかし、8月後半、ソ連軍の大攻勢を受け、日本軍は壊滅的打撃を受ける。公刊戦史『戦史叢書』などによれば、日本側の死傷者数は1万8000人以上となった。

ソ連側の死傷者数が日本側を上回ったことで超えることが判明した。さらに、事件を単なる日本側に見るのは、ソ連の軍事行動を單なる研究が広がっている。スターリンはソ連は、ドイツとの関係を安定させた上で、満蒙国境での日本の戦いに備えて捉えようとする研究が広がっている。ソ連は日本側の軍事行動を單なる研究が広がっている。ソ連は日本側の軍事行動を單なる研究が広がっている。

ソ連側の死傷者数が日本側の数字を上回ったことで超えることが判明した。日本側に見るのは、ソ連の軍事行動を單なる研究が広がっている。ソ連は日本側の軍事行動を單なる研究が広がっている。

ソ連側の死傷者数が日本側の数字を上回ったことで超えることが判明した。日本側に見るのは、ソ連の軍事行動を單なる研究が広がっている。ソ連は日本側の軍事行動を單なる研究が広がっている。